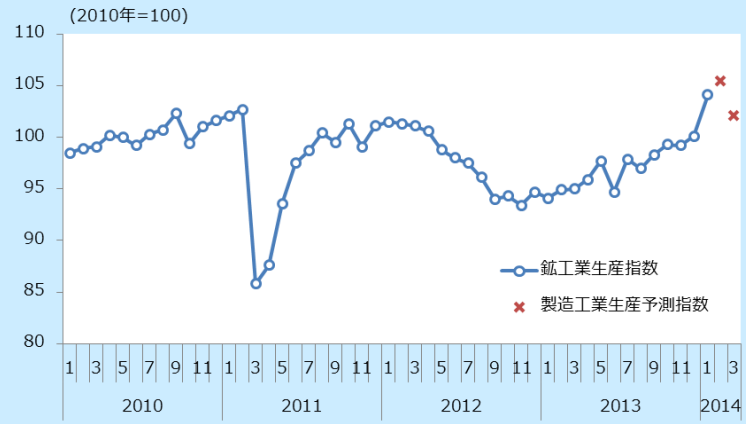
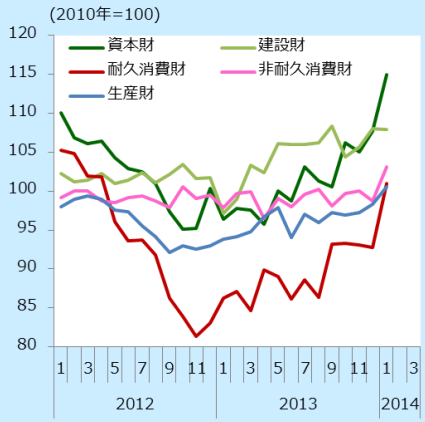
日本：鉱工業生産指数（2014年1月）

MRI Daily Economic Points
February 28, 2014

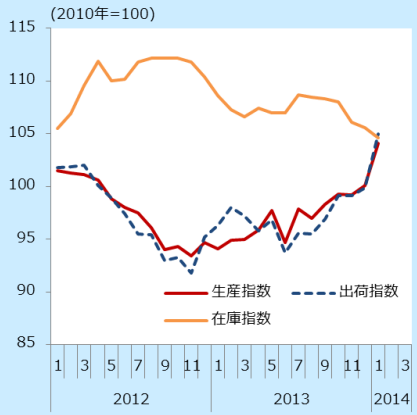
鉱工業生産指数・製造工業生産予測指数



財別生産指数



生産・出荷・在庫指数



資料：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

2014年1月の結果

- 1月の鉱工業生産指数は季調済前月比+4.0%と2ヵ月連続の上昇となった。単月では、震災後の回復期にあたる11年6月以来の高い伸び。出荷指数も同+5.1%と5ヵ月連続の上昇。
- 4月の消費増税前の駆け込み需要をにらみ、製造業各社は増産体制に入っているとみられ、輸送機械（同+8.0%）、はん用・生産用・業務用機械（同+9.6%）、化学（同+4.9%）、電気機械（同+4.1%）など幅広い業種で生産が増加している。
- 財別の生産指数によると、高水準で推移してきた建設財にやや頭打ち感がみられるものの、資本財や耐久消費財を中心に高い伸びをみせている。
- 在庫指数は同▲0.9%と6ヵ月連続の低下となった。12年以降の生産・出荷・在庫の動きをみると、12年中は出荷の減少に生産の調整が追い付かず在庫水準が高まったが、13年入り後は、堅調な出荷を背景に在庫水準は低下傾向にある。
- 翌々月までの生産見込みを調査した生産予測指数によると、2月は+1.3%と増加した後、3月は▲3.2%と低下する見込みとなっている。

基調判断と今後の流れ

- 消費増税前の駆込み需要もあり、内需がけん引するかたちで、生産が回復の動きを続けている。
- 自動車やパソコンなどでは駆込み需要も顕在化してきているが、生産・在庫の動きをみる限り、過剰に在庫を積み増す動きはみられず、3月には減産見込みとなっている。消費増税後の反動減を想定し、企業は慎重な生産計画を立てているとみられる。
- 先行きの生産は、新興国向けを中心に引き続き輸出の低調な推移が予想されるなか、消費増税後も内需が堅調を維持できるかが鍵となる。

Copyright (c) Mitsubishi Research Institute, Inc.

担当：政策・経済研究センター　森重彰浩　TEL 03-6705-6087